

これなあに？



子どもの姿・発達過程

- 食事、衣類の着脱など保育者の援助に応じるようになる。
- 歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りのものに自発的にはたらきかけていく。
- 歩く、押す、つまむ、めくるなどのさまざまな運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境にはたらきかける意欲を一層高める。
- 大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。
- 物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人やものとの関わりが強まる。また、入れたり出したりなど同じことを繰り返し遊ぶことを楽しむようになる。
- 指さし、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。
- 生活や遊びの中で、見たり聞いたりしたことをまねて、言葉や体で表現しようとする。

家庭との連携
地域との関わり

日々の会話や連絡ノートで子どもの様子について家庭と密に連携を取り、育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、支えながら、親子の居場所として地域に開放し、いろいろな人に話しかけられたり、あい地域の自然に触れる機会をつくり、身近な自然物に興味や親しみをもてる

ねらい
● 養護
● 教育

- 一人ひとりの基本的
- 保育者との信頼関係
- 安心できる保育者の
- 安全で活動しやすい
- 身の回りのものを自
- つぶやき、仕草などに

欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
を基盤に、一人ひとりの気持ちに共感し自己主張を受け止めながら、自我の育ちを援助する。
もとで、食事、排泄など自分でしようとする気持ちの芽生えを育てる。
環境の中で、自由に姿勢を変えたり、歩く、走る、登る、跳ぶなどを十分楽しむ。
由にいじって遊び、さまざまなものに好奇心や関心をもつ。
共感されながら言葉で表現する楽しさを感じる。

みんなとともに育つ子ども

おもい、考え、行動する子ども

のびやかでゆたかな心をもつ子ども

内 容

■ 環境構成 ● 援助

健康

- **じぶんで、じぶんで**
- 保育者と一緒に身の回りの簡単なことを芽生える。
- さまざまな食品や調理形態に慣れ、ゆっを楽しむ。
- スプーン、フォークを使って一人で食べよ
- 衣服の着脱に興味をもつ。
- 歩く、走る、登る、降りる、跳ぶ、くぐる、玩使う楽しさを知る。

自分でしようとする気持ちが
たりとした雰囲気の中で食事
うとする気持ちをもつ。
具を押す、引っ張るなど全身を

- 身の回りのことは、一人ひとりの状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重する。また着替え等は、周囲から見えないよう配慮した決まった場所で行うようにする。
- おむつやパンツが汚れたら、やさしく言葉をかけながら取り替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。
- 生活や遊びの場面において、子どもが関心をもった時にタイミングよく言葉をかけ自分でもやってみたくするような援助を工夫する。
- 自ら体を動かそうとする意欲が育つよう、室内外でも体を動かせる安全な環境を整える。

人間関係

- **心の栄養を十分に**
- 親しみのある保育者との受容的な関わりして表す。
- 生活や遊びの中で、身近な人と関わる心

を通して自分の気持ちを安心
地よさを感じる。

- 子どもが何かをしながら、振り返った時に、そこに見守っている大人がいるという安心感がもてるよう信頼関係を築いていく。
- 自我が芽生え、上手く思いを言葉にできず、泣く、誘いかけに「いや」と拒否して表現する時などは、待ったり共感する言葉をかけたり、やさしく体に触れたり、気持ちに寄り添いながら関わる。

言葉

- **これなあに？**
- 保育者との応答関係の中で、話しかけられや片言で伝えようとする。
- 興味のある絵本を保育者と一緒に見なが楽しむ。

れることを喜び、自分から身振
ら、簡単な言葉の繰り返しを

- 指さし、身振りなどで気持ちを伝えようとしたり、言葉(二語文)の獲得につながったりするよう、保育者との応答関係を大切にします。
- 子どもが目を向けていることや行動に共感し、子どもの心に響く言葉をかけていく。
- 身近なものの写真絵本や簡単な繰り返しのある絵本を子どもが手に取りやすい位置に並べておく。

環境

- **おもちゃで一緒にあそぼ**
- 保育者と一緒に探索を楽しむ、水、砂、土、て、身近な自然物に関わる。
- 保育者と一緒に玩具や遊具、さまざまなまむ、転がすなど手や指を使った遊びを十分
- 生活の中でさまざまな音や形、色や味、香することを楽しむ。

草花などを見たり触ったりし
素材に触れ、いじる、たたく、つに楽しむ。
りなどに気付いたり、感じたり

- 子どもが繰り返し遊んでみたくするような入れたり出したりできる玩具や、ボールなど転がして遊べるような玩具を用意する。
- 一人ひとりがじっくりと楽しめるようにコーナーを分け、個々の発達段階に合わせたいろいろな種類の玩具を用意する。
- ● 子どもが探索したくなるような環境を用意し、ゆったりと見守りながら、子どもの気付きや発見に共感していく。

表現

- **歌に合わせてゆらゆらと**
- 音を鳴らしたり、歌やリズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。
- 保育者の歌を楽しんで聞いたり、一緒に

を動かすことを楽しむ。
歌ったり簡単な手遊びをする。

- さまざまな音の面白さを感じたり、自然と体を揺らしたり、踊ったりするなど豊かな感性が育つよう、音の鳴るものや手作り楽器などを準備する。
- 1対1で向かい合い、穏やかな声で歌ったり手遊びをしてみせ、まねたり大人と一緒に表現する楽しさの芽生えに共感していく。

子どもの成長を喜び合い、信頼関係を築いていく。①②
もに話しかけたり、あやしたり、スキンシップを取ることの大切さを伝えていく。③
さつされる経験の中で親しみの気持ちを育めるようにする。(あ)(い)
ようにする。(え)

※数字①～④は全体的な計画の「家庭との連携」を具体的に表したものです。
※ひらがな(あ)～(お)は全体的な計画の「地域との関わり」を具体的に表したものです。

子どもとSDGs【1歳児】



待て待て～



押してあげる



あ、進んだ！
進んだ！

体を動かすことの
楽しさを知る



しゅっぱつ
しんこう

整えられた環境の中で、歩く、走る、跳ぶ、遊具で遊ぶなどさまざまな遊びを自ら選び楽しみます。全身を使う遊びを通して丈夫な体づくりをめざします。自ら遊びを選び、主体的に環境に関わることは、自ら行動する力へとつながっていきます。



身の回りの自然の
不思議さや面白さを
感じる

戸外に出ると、子どもたちの好奇心が刺激されます。草花や葉っぱを拾ったり、虫に触ったりすることで身近な生き物の存在を知り、自然物への興味を深めていきます。保育者に気付きや発見を共感してもらいながら、生命の尊さや自然の面白さに気付くことは、同じ地球に住む一員として、生き物や自然を大切にするという気持ちを育みます。



これなんだろう

おいも畑だよ

野菜に水やりを
しているよ



身近な自然に関心をもち
関わろうとする

園での菜園活動や、散歩で地域の田畑を見することで、自分たちが普段食べているものが、どのようにできるかを知り、食べられることのありがたさを感じるにつながります。